

令和 7 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は数日の周期で変わったが、北日本日本海側を中心に低気圧の影響を受けやすかった。このため、旬間日照時間は北日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と東日本日本海側で少なかったが、低気圧はあまり発達しなかったため、旬降水量は北・東日本日本海側で少なかった。東日本太平洋側では 1 日から 3 日頃にかけて南岸低気圧の影響を受けたため、旬降水量は多かった。一方、西日本は高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。沖縄・奄美は 1 日と 10 日頃に低気圧や前線の影響を受けたため、旬降水量は多かった。旬平均気温は、期間前半は沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けやすく、期間後半は北日本を中心に暖かい空気が流れ込みやすかったため、沖縄・奄美でかなり低く、北日本で高かった。

中旬は、全国的に天気は数日の周期で変わったが、13 日から 16 日頃に低気圧が北日本付近をゆっくり通過したため、北日本を中心に曇りや雨の日が多く、北海道地方では 4 月として記録的な大雨となった所があった。このため、旬降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。北日本日本海側では平年比 279%と 1946 年の統計開始以降で 4 月中旬として 1 位の多雨となった。また、旬間日照時間は北日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美は、高気圧に覆われやすかったため、旬間日照時間はかなり多かった。旬平均気温は、17 日から 20 日頃に南高北低の気圧配置となって暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。

下旬は、全国的に天気は数日の周期で変わったが、北日本では低気圧の影響を受けやすく、特に 29 日頃に北日本付近を通過した低気圧により、まとまった降水があった。一時的な寒気の流れ込みにより、北海道地方の平地でも積雪となった所があった。このため、北日本日本海側と北日本太平洋側では旬降水量が多く、旬間日照時間が少なかった。一方、東日本以西では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。このため、旬降水量は東・西日本日本海側と西日本太平洋側で少なく、旬間日照時間は西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。旬平均気温は、旬の前半中心に本州付近に暖かい空気が流れ込みやすかったことから、東日本で高かった。

【4 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)より 4 ポイント低い 75%となった。地方別の適中率では、北海道、東北、関東甲信、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 2.2℃で、北海道、関東甲信、東海、近畿、中国、四国、沖縄の各地方では例年値を下回

ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値より0.1℃大きい1.9℃で、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値より上回ったが、その他の地方では例年値より下回った。

(注) 例年値は2015年～2024年の平均値です。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では6月上旬～中旬に、九州南部から東北地方にかけて梅雨入りとなります。この時期は、曇りや雨の日が多く、大雨になることもあります。前線の影響が弱まり高気圧に覆われたときには季節外れの高温となることもあります。一方で、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むために気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。週間天気予報からわかる向こう1週間の天気や気温の傾向を、大雨への備えや熱中症予防行動、農作物の管理等に役立ててください。